

2026年4月14日

JR四国・リレーションシップファンド 「株式会社夢菓房たから」と資本提携 ー 成長戦略と事業承継の実現を支援 ー

日本プライベートエクイティ株式会社

日本プライベートエクイティ株式会社(本社:東京都千代田区。以下、「JPE」)は、今般、四国旅客鉄道株式会社(代表取締役社長:四之宮和幸、本社:香川県高松市。以下、「JR四国」)が全額出資する「JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合(以下、「四国リレーションシップファンド」)の100%出資会社である「J・マルシェ株式会社」(以下、「J・マルシェ」を通じて、株式会社夢菓房たから(代表取締役:濱田浩二、本社:香川県高松市。以下、「たから」)に出資、資本提携をいたしました。

たからは、昭和11年の「たからまんぢう」創業から今日に至るまで90年、地元では、『たからの“いちご大福”』といった看板商品をはじめ、四季折々の素材を活かしたフルーツ大福や創業当時から変わらない『栗みかさ』など、和菓子の伝統を大切に守りつつ、常に新しい驚きを感じさせる革新的なお菓子づくりを続けてきました。

今般、たからでは、創業以来、変わる事のない、お客様を笑顔にしたいという“心”に基づき、これからも“お客様に愛される和菓子屋さん”であり続けるため、四国リレーションシップファンドを“資本と経営のパートナー”に迎えました。

また、四国リレーションシップファンドとしても、たからが掲げる“お菓子が美味しい、スタッフは楽しい、お客様も嬉しい”という想いを尊重し、事業の“承継・継続・成長・発展”を共に実現するため、今般の資本提携に至りました。

「四国リレーションシップファンド」は、JR四国が全額出資し、JPEが運営する“プライベートエクイティ・ファンド”です。四国を中心に、「事業の承継と成長を両立させたい中堅・中小企業」や「JR四国との連携や四国経済・社会・文化の発展に資する事業を展開する中堅・中小企業」に出資し、地元に残し、共に成長することで、地域・業界・人材の活性化を促し、ファンドを通じた“成長の好循環”を地元で創出、共存共栄による“地域的意義”を果たすことを目指しています。

1. 本件概要

たからは、戦前の昭和11年(1936年)に高松市東山崎町にて『たからまんぢう』を創業してから現在に至るまで、看板商品である『いちご大福』をはじめ、素材や製法にこだわり、“本当に美味しいお菓子をお客様に提供したい”という心とともに、様々なお菓子を多くのお客様に届け、地域で長く親しまれ愛されてきた和菓子屋さんです。

1994年に生まれた『たからのいちご大福』は、2002年全国菓子大博覧会の名誉総裁賞を受賞するなど、香川県内にとどまらず全国でも知られる看板商品です。また、いちご大福に続く、四季折々の旬と素材にこだわった、約40種類を超える多彩な『フルーツ大福』は、全国の和菓子業界の先駆けであり、30年経った今でも、幅広い世代から支持されています。

2006年(平成18年)に移転した、現在の春日町本店が、平日でもたくさんのお客様で賑わうなか、2024年には、JR高松駅ビル「オルネ」に新店をオープン、地元のお客様だけでなく、四国を観光で訪れる国内外のお客様にも人気のお店となっています。

創業から90年を迎え、これからも、たからは、業界や地域を牽引し、多くのお客様に笑顔と本物の美味しさを届け続けなくてはならない和菓子屋さんでもあります。

今回、JPEでは、たからの歴史とその歴史のなかで培われてきた心やブランド、技術、こだわりなど、多くのお客様の支持を得ている実績と将来性を高く評価、これからも、香川・四国で伝統と革新を続けていく企業であり、日本や世界に広く知らしめるべき企業でもあると考え、四国リレーションシップファンドより出資、資本提携を行い、たからの事業承継支援と企業基盤の強化、成長発展を実現します。



2. 資本提携の先に目指すところ

(1) 伝統を守り、改革を続けるために / 資本と経営のパートナーを選択

日本の和・洋菓子、デザート類の市場規模は 2.4 兆円で、美味しいお菓子を求めるニーズは底堅く、安定成長する市場となっています。(株式会社矢野経済研究所 調査)。

しかし、地域に密着した中小菓子製造業者は、地元でのマーケットが限定されるなか、原材料の高騰や人件費・物流費といったコストの上昇、人手不足、設備老朽化等、経営を取り巻く環境は厳しくなっています。特に、和菓子は、家族経営ゆえの小規模な事業者が多く、後継者不在や手作業や勘に頼る技術承継の難しさから、事業の存続と継承のハードルが高くなっています。

そうしたなか、たからは、地域を代表する企業として成長し続けるため、単独で事業を継続するか、同業大手や他社と組むのかといった選択肢のなかで、四国リレーションシップファンドとの資本提携を選択されました。

地域の老舗企業としての伝統やのれん、社風をそのまま残しながら、社員を中心とした運営や地域とのつながりを重視した経営を継承し、さらなる成長を目指すためには、中立性や独立性、さらには地域性も担保される「四国リレーションシップファンド」を“資本と経営のパートナー”とすることが最も望ましいと判断しての決断です。あわせて、“選ばれた企業”として、JR四国やJPEをはじめとする、新しいパートナーとの連携により、大切な事業を確実に次世代へと継承していきたいという、強い想いがそこにはあります。

今後も、たからの経営は、現・社長である濱田浩二氏が、代表取締役を務め、JPEは、社外取締役として“経営の応援団”となって経営に参画することで、さらなる成長を共に実現します。

(2) 中長期目線の経営を考えるために / 組織経営への移行

国内の洋菓子・和菓子・デザート類・アイスといったスイーツ業界では、消費者が食に求める変化のスピードは速く、多様化が進んでいますが、本当に“美味しいもの”を求めていることは常に変わることなく、コロナ終息後の国内外からの人流の回復に伴う観光や手土産需要も追い風となるなかで、引き続き、様々な挑戦ができる市場となっています。

そうしたなか、たからは、今般の資本提携により、経営を見通す時間軸が 10 年、20 年と長くなったことで、これからは、目先の課題だけではなく、中長期的な目線で経営課題に向き合いながら、組織経営への移行を図ることで、より先を見据えた挑戦が可能となります。特に、人材確保や出店、商品開発、生産管理、材料調達、物流、新業態や売り場づくりなど、自社だけでは実現に時間がかかる戦略や構想を早期に具現化していきます。

あわせて、将来を見据え、オーナー経営から社員を中心とした組織経営へ移行することで、“家業の心を持ちながら、社員一人ひとりが活躍する企業”として、これからも、伝統、ブランド、社員、商品を守り、みんなで改革と挑戦を続け、さらに発展していくことを目指します。

(3) 新たな挑戦と成長を続けるために / JR四国グループとの事業連携

今般、たからは、JR四国を唯一の出資者とする、四国リレーションシップファンドとの今般の資本提携で、より信用力も高まり、事業面・人材面・資金面においても事業展開が円滑に進むことが期待されます。

JR四国は、“駅”を起点に、通勤・通学、旅行、出張等の多くのお客様に様々なサービスを提供している他、JR四国グループとしても、地域に根差した幅広い事業を展開しています。

よって、JR四国グループとの連携を通じた、新しい売り場や店舗づくりへの挑戦、コラボ商品や新業態の開発、新しい販路の開拓といった、新たな挑戦への機会を共に創り出していきます。また、場所(駅ビル・ホテル・催事)や顧客(乗客・宿泊客等)、人材や売り場、物流や保管・管理といった経営資源の共有を通じて、双方が有する有形無形の資産の有効活用を進めることで、業務効率化といった観点からの相乗効果の創出も目指します。



(2026年2月27日 JR高松オルネ店 リニューアル OPEN)

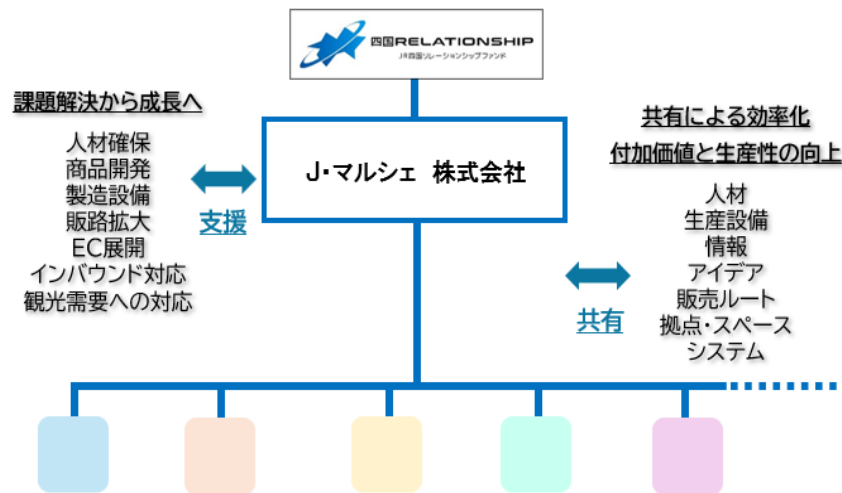
(4) “共創・共成・共栄”を実現するために / J・マルシェ・アライアンスへの参画

今般の資本提携では、四国リレーションシップファンドが100%株主として設立した持株会社「J・マルシェ株式会社(以下、「J・マルシェ」)」が、たからの新たな株主となります。

四国リレーションシップファンドでは、今後、洋菓子・和菓子・銘菓・土産菓子・郷土菓子といった、四国のスイーツ業界の中小・小規模企業、あるいは、スイーツの素材の生産や流通に関わる周辺企業も視野に置き、J・マルシェを通じて投資や株式の承継(譲り受け)を行い、資本によるつながりを構築していきます。

J・マルシェでは、地域の企業を守り、残し、伸ばすために、“共創・共成・共栄”という理念を掲げ、四国のスイーツ業界の中堅・中小企業による緩やかで対等なアライアンス(連携)を構築し、各社の課題解決や成長戦略を後押しします。

たからは、J・マルシェのアライアンスに参画する1社として自立・独立した企業としてありながら、自社のブランド、社風、雇用を堅持し、事業の存続とさらなる発展を目指します。



以上、今般のたからへの投資は、JPEとしては、全国で39社目の投資先となります。JPEの経営理念は、“志を継いで 夢をカタチに。夢を継いで 新たなる時代へ”です。たからが掲げる『お菓子が美味しい、スタッフは楽しい、お客様も嬉しい』『お客様の子の世代、孫の世代まで親しまれ愛され続ける和菓子屋さんでありつづきたい』という理念と想いを共有し、創業者である濱田春雄氏が立てた“志”を継いで、社員のみなさん一人ひとりが思い描く“夢”をカタチにしていきます。

そして、引き続き、JR四国を出資者とする「四国リレーションシップファンド」の運営を通じて、四国の優良な中堅・中小企業の資本と経営を承継し、各社の課題解決や成長戦略の実現を支援します。

<会社概要> (*2026年3月31日現在)

□ 株式会社夢菓房たから <https://e-takara.jp/>

本社所在地	香川県高松市春日町 214 番地
設立	1985年3月6日 (創業:1936年)
代表者	代表取締役 濱田 浩二
資本金	1,000万円
従業員数	82名 (2025年12月現在、パート含む)
事業内容	「いちご大福」をはじめ 40種類を超えるフルーツ大福などの和洋菓子を製造小売、本店及びオルネ店を運営

□ JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合 <https://jr-shikoku-fund.jp/>

組合名称	JR四国・リレーションシップ1号投資事業有限責任組合
設立	2023年10月3日
ファンド規模	20億円
投資対象	四国地域の発展に資する全国の中堅・中小企業、スタートアップ企業、新たに設立される会社
出資者	四国旅客鉄道株式会社
運営者	日本プライベートエクイティ株式会社

□ 四国旅客鉄道株式会社 <https://www.jr-shikoku.co.jp/>

会社名	四国旅客鉄道株式会社
所在地	香川県高松市浜ノ町 8 番 33 号
設立	1987年4月1日
資本金	35億円
代表者	代表取締役社長 四之宮 和幸
従業員数	2,010名 (2025年4月現在)
事業内容	旅客鉄道事業、旅行業、その他関連事業

□ 日本プライベートエクイティ株式会社 (JPE) <https://www.private-equity.co.jp/>

所在地	東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
設立	2000年10月
資本金	6,000万円
代表者	代表取締役社長 法田 真一
事業内容	中堅・中小企業、小規模企業の事業承継や事業再編を対象としたファンドの運営、コンサルティング

＜本件に関するお問い合わせ先＞

日本プライベートエクイティ株式会社 <https://www.private-equity.co.jp/>
東京都千代田区神田三崎町二丁目 15 番 6 号 K-STAGE 5F
Tel:03-3238-1726 Fax:03-3238-1639
担当：東京本社 企画部 (info@private-equity.co.jp)
四国オフィス 遠藤

以上

四国へ 人を繋ぎ

四国に 人が集い

四国で 人が笑う

四国・リレーションシップファンドは、みんなで“新しい四国”を創ります



四国RELATIONSHIP
JR四国リレーションシップファンド